

I. 私たちが聖書で明らかにされている一を理解することは困難であるので、主イエスはヨハネ第17章で、彼の弟子たちに語った後、続けて一について語ったのではなく、一について祈りました:

A. 御父と御子は一であり、この一はその霊を暗示し、あるいは含みます。

ヨハネ17:11 私はもはや世にいません。彼らは世にいますが、私はあなたに行きます。聖なる父よ、あなたが私に与えてくださったあなたの御名の中で、彼らを守ってください。それは、私たちのように、彼らが一となるためです。

私たちの一としての三一の神の中にいるために、私たちは聖別される必要があります。すなわち、私たちはこの世と混合されることから分離される必要があります。私たちは真の一を実行しようとするなら、この世が去らなければならないことを認識しなければなりません。私たちは三一の神とミングリングされ、同時にこの世との混合の中にとどまっていることはできません。ですから、私たちはこの世と混合されることから分離されなければなりません。それは、私たちが三一の神へと聖とされて、彼との純粋なミングリングを持つことができるためです。この純粋なミングリングが一です。私たちは真の一を実現することを願うなら、混合する世から聖別する神へと、彼の聖別する言葉の実際を通して分離されなければなりません。

B. 主は「私たち」という複数形の代名詞を用いて、三一の神を表徴しました。

C. 三一の神は一であり、その一はキリストのからだの一の模範です。

D. キリストのからだの一は、神聖な三一の拡大された一です。

ヨハネ17:21 それは、彼らがすべて一となるためです。父よ、あなたが私の中におられ、私があるあなたの中にいるように、彼らも私たちの中にいるためであり、あなたが私を遣わされたことを、世の人が信じるためです。

真の一は、単に私たちが共に集会するという事柄ではありません。…私たちの一は、キリストの有機的なからだの一です。キリストのからだは、三一の神と彼の贖われ造り変えられた人々とのミングリングです。それはそのようなミングリングであるので、からだ自身が一です。三一の神(父、子、霊)の三者は、この一の三つの神聖な要因であり、この三つの神聖な要因は一つの人性の要因とミングリングされて、からだにおいて究極的に完成します。このからだが真の一です。

E. 私たちの一の基礎は、主イエスが祈った一です:

1. この一は御父の御名の中にあり、永遠の命によります。

ヨハネ17:6 私は、あなたが世から私に与えてくださった者たちに、あなたの御名を現しました。彼らはあなたのものでしたが、あなたは彼らを私に与えてくださいました。そして、彼らはあなたの言を守りました。

2. この一は三一の神の中にあり、聖なる言葉による聖別を通してです。

ヨハネ17:17 彼らを真理の中で聖別してください。あなたの言は真理です。

3. この一は神聖な栄光の中にあり、三一の神の表現のためです。

ヨハネ17:22 あなたが私に与えてくださった栄光を、私は彼らに与えました。それは、私たちが一であるように、彼らも一となるためです。 23 私が彼らの中におり、あなたが私の中におられるのは、彼らが成就されて一となるためです。

真の一は、三一の神と贖われた人性とのミングリングであり、三つの面があります。第一の面は御父の御名の中にあり、彼の神聖な命による一であり、第二は三一の神の中にあり、彼の聖別する言葉を通してです。第一の面は一の源と要素に関してであり、第二の面は一の立場に関してです。もし私たちがこの世にいてサタンの手の下にいるなら、一を実行することはできません。一を実行するために、私たちはこの世から分離され、サタンの手から離されなければなりません。真の一の第三の面はキリストにある信者たちの一であり、神聖な栄光の中にあります。私たちは長年、新約を学んだ後、神の栄光が彼の神聖な命であり、彼の神聖な性質を伴っており、彼を表現することを見いだしました。

ヨハネ17:24 父よ、私がお願いするのは、あなたが私に与えてくださった者たちも、私がいる所に共におり、あなたが私に与えてくださった私の栄光を、彼らが見ることです。それは、世の基が置かれる前から、あなたが私を愛されたからです。

- F. 主がすべての信者たちの間の一のために御父に祈ったのは、その一が神聖な三一の真の一と結合するためです。

- II. 私たちはキリストのからだの唯一であることを見る必要があります。すなわち、宇宙に一つのからだがあります。

エペソ4:4 一つからだと一つ霊、それはあなたがたも、あなたがたの召しの一つ望みの中で召されたようにです。 5 一つ主、一つ信仰、一つバプテスマ。 6 すべてのものの神また父は一つ、この方はすべての上に、すべてを貫き、すべての中におられるのです。 2:19 そこであなたがたは、もはや他国人でも寄留者でもなく、聖徒たちと同じ国籍の者、神の家族の者であり、

コロサイ3:11 その新しい人には、ギリシャ人とユダヤ人、割礼と無割礼、未開人、スクテヤ人、奴隸、自由人はあり得ません。キリストがすべてであり、すべての中におられるのです。

Ⅲ. 一の実行は一つ思いです。一つ思いは、新約におけるあらゆる祝福のマスターキーです。

使徒1:14 これらの人はみな、婦人たち、イエスの母マリア、イエスの兄弟たちと共に、一つ思いでひたすら祈り続けていた。

Ⅳ. エペソ第4章1節から3節の五つの句は私たちに、その霊の一(キリストのからだの一)を保つ実行上の道を与えており、それは一つ思いを実行することです。その五つの句は、「謙虚」、「柔和」、「辛抱強さ」、「愛の中で互いに担い合い」、「平和の結合するきずな」です。この五つの項目は、召会生活の実行における私たちに対するテストです。私たちはこのテストによって、実行上、召会生活の中にいるかどうかを見ることができます：

エペソ4:1 こういうわけで、主の中の囚人である私は、あなたがたに懇願します。召されたあなたがたは、その召しにふさわしく歩きなさい。2 謙虚と柔和を尽くし、辛抱強さをもって、愛の中で互いに担い合いつつ、3 平和の結合するきずなの中で、その霊の一を保つことを熱心に努めなさい。

A. 私たちは他の人に対して高い標準を設定すべきではなく、謙虚になって弱い人たちを愛すべきです：

1. 私たちはキリストご自身以外のものを自分の標準としている限り、謙虚ではありません。もし私たちが高い標準を定めるなら、思いと態度においてへりくだっていません。
2. あるものがどれほど良く、天的で、霊的であっても、それがキリストご自身以外のものである限り、分裂を引き起こします。
3. 弱い人、幼い人、後退した人は、主にある愛をさらに必要とします。彼らを愛することは、彼らの大部分の問題を解決します。そうでないと、私たちは傲慢さから、また謙虚でないことから、高い標準を設定してしまうでしょう。

ある人が霊的であってもなくても、彼が大いに主を愛していてもいなくても、私たちは彼を他の人と同じように扱わなければなりません。主のあわれみによって私たちは、主を愛さない人たちを、主を愛する人たちよりさらに良く扱うべきです。…私たちがあわれな後退した人を愛するなら、彼はもはや後退した人ではないでしょう。彼は私たちの愛によって連れ戻されるでしょう。四福音書によれば、主はこの地上にいたとき、善良な人たちに対して示した以上に、罪人や取税人に愛を示されました。これは真の謙虚とへりくだりです。真のへりくだりを持つことは、私たちの間で何の標準も設定しないことです。これは召会生活を持つ実行上の道です。召会生活はとても霊的ですが、また召会の中には多くの後退した人たちがいます。…私たちはあらゆる人、最も悪い人さえ愛さなければなりません。

B. 私たちは自分自身を犠牲にして、態度が柔和でなければなりません：

民12:3 モーセという人は、地上のだれにもまさって非常に柔和であった。

マタイ5:5 柔和な人たちは幸いである。彼らは地を受け継ぐからである。

高い標準を持たないことは、謙虚についての私たちの動機のテストです。私たちの動機は、ある標準と関係なく、謙虚の中であらゆる人を愛することでなければなりません。しかしながら、柔和は態度の事柄です。私たちの態度は、柔和の態度でなければなりません。「柔和」のギリシヤ語は、温和、優しさ、利己的でないことを暗示します。召会における私たちの態度は、温和で柔和でなければなりません。ですから、私たちは弁明しません。私たちはみな碎かれる必要があります。もし私たちが利己的であるなら、決して真に柔和であることはできません。むしろ、私たちの柔和は虚偽です。利己的でない人だけが、真の柔和を持っています。

私たちは人であって、だれかの動機を見ることはできません。私たちは彼の顔と態度を見ることができるだけです。兄弟に厳しく語っているのに、良い心や動機を持っていると主張することは不可能です。ですから、正常な召会生活を保つために、私たちはみな、私たちの態度が調整されなければなりません。この事柄で、私たちは真に碎かれる必要があります。

1. 「柔和」のギリシヤ語は、温和、優しさ、利己的でないことを暗示します。
2. 柔和は利己的でない態度であり、温和で優しく、決して自分自身のために言い争わず、決して自分自身のために弁明しません。
3. 私たちは柔和であるために、自分がどのように扱われても、自分自身を犠牲にしなければなりません。私たちは召会生活の中で、厳格で、かたくなで、冷酷な態度を取ってはなりません。
4. 私たちは正しい態度を取るために、利己的であってはなりません。利己的でないことは、柔和、温和、優しさを生み出します。
5. 多くの地方召会で、問題は大部分、間違った、不注意で、冷淡で、厳格な態度から来ます。サタンは常に不注意な態度を用いて召会を攻撃します。

エペソ6:16 なおその上に、信仰の盾を取りなさい。それによって、あなたがたはあの邪悪な者の燃える火の投げやりを、いっさい消すことができます。

6. 私たちは召会生活を持つために、召会生活がとても細やかであって、粗雑でないことを学ぶ必要があります。予表によれば、召会は団体の穀物のささげ物であり、きめの細かい小麦粉で作られた輪型の平らなパンです。

レビ2:4 あなたがささげ物として、かまどで焼いた穀物のささげ物を献げるとき、それはきめの細かい小麦粉によるもので、油を混ぜ合わせたパン種のない輪型の平らなパン、あるいは油を塗ったパン種のない極薄のパンでなければならない。

C. 辛抱強いとは虐待を耐え忍ぶことです。辛抱強いとはおもに、私たちの語った言葉と関係があります：
エペソ4:2 謙虚と柔和を尽くし、辛抱強さをもって、愛の中で互いに担い合いつつ、3 平和の結合するきずなの中で、その霊の一を保つことを熱心に努めなさい。

1. ある兄弟が私たちを不当に扱っても、主の栄光のために、また召会生活のために、私たちはそれについて一言も語るべきではありません。私たちに起こるあらゆることについて語り、発表し、話すことは、辛抱強さや忍耐を必要としません。
2. もし私たちが、指導的な兄弟たちが口論しているのを見るなら、直ちに行ってこれを他の兄弟に話すかもしれません。しかし私たちが学課を学んでいるなら、主の栄光のために、また彼の召会のために、私たちは一言も言わないでしょう。
3. 私たちはそのような正しい方法で自分の言葉を守ることを学ぶなら、召会生活における「苦難」という言葉の真の意義を認識します。
4. メッセージが与えられた後、私たちは直ちに、語った人を批判し始めるかもしれませんが、学課を学んでいるなら、それについて何を感じていても、召会生活の実行のために、務めについて何も消極的なことを言わないでしょう。私たちの口は聖霊の制御の下にあるでしょう。
5. 私たちの語ることや会話は、他の何にもまして召会を破壊します。いったん物語が又聞きであるなら、変わり始め、最終的に大きな誇張になり得ます。うわさ話は常にこのようです。
6. 私たちは辛抱強さの学課を学ぶために、自分の口を拘束し、自分の舌を制止するという苦しみを経験する必要があります。私たちは多くの事を見たり聞いたりしても、聖霊の油塗りと導きなしに、一言も語るべきではありません。それは、召会生活が破壊から守られるためです。

D. 私たちは愛の中で互いに担い合うために、召会生活の中で、疑いや恐れに対抗して戦う必要があります：

1. 私たちは疑いや恐れを持つのではなく、愛だけを持つべきです。愛は召会生活の中で優勢であるべきです。私たちが召会生活の中で何であろうとも、あるいは何を行なおうとも、愛が最も卓越した道です。
2. 兄弟に対して疑いを持つことは、私たちの愛がなくなったことを意味します。そして疑いの後、恐れが続きます。Iヨハネ第4章18節は言います、「愛には恐れがありません。完全な愛は恐れを追い出します」。

Iヨハネ4:18 愛には恐れがありません。完全な愛は恐れを追い出します。なぜなら、恐れは罰を伴い、恐れる者は愛の中で全うされていないからです。

もし二人の兄弟が互いに疑っているなら、彼らは互いにスパイのようになるでしょう。これは、彼らの間に相互の恐れを生み出します。私たちは疑いや恐れに立場を与えてはなりません。私たちは兄弟たちを愛します。私たちは彼らを恐れません。

3. 私たちに対する他の人の態度や、彼らが私たちをどのように考えているのか、私たちについて何が言われているのかを知ろうとする誘惑が常にあります。私たちは召会生活を実際化するために、この誘惑を拒絶しなければなりません。

私たちは主を信じ、すべての兄弟たちは良いと考えます。ですから、あまり多く知る必要はありません。他の人たちが私たちをどのように考え、どのように話そうとも、私たちは主の御手の中にあります。私たちがこのように実行するなら、ドアは敵に対して閉ざされます。

E. 私たちは平和の結合するきずなの中で、その霊の一を保つことを熱心に努める必要があります：

1. もし私たちが神と平和を持つだけで、すべての兄弟たちと平和を持たないなら、召会生活を失っています。召会生活は、私たちが持つ平和によってテストされ、この平和は神との垂直の平和だけでなく、すべての兄弟たちとの水平の平和でもあります。
2. 私たちはだれとも関係が過度であったり、関係が不足したりすべきではありません。平和の結合するきずなは、召会における均衡のとれた関係です。

V. 私たちはかしらとしてのキリストに結び付く(彼だけがかしらであることを承認し、絶対的に彼の権威に服する)なら、聖書の異なる解釈を持つことはあり得ません：

I テモテ1:3 私がマケドニアへ出発する時あなたに勧めたように、あなたはエペソにとどまっていて、ある人たちが異なる事を教えたり、4 作り話や果てしのない系図に、心をとめたりすることがないように命じなさい。そのようなものは、信仰の中にある神のエコノミー[経綸]ではなく、むしろ論議を引き起こすだけです。

コロサイ2:19 かしらに結び付いていないのです。この方から、からだ全体は、節と筋によって豊かに供給され、結合され、神の増し加わりによって成長するのです。

- A. 違いが起こるのは、だれかがかしらに結び付かないときです。なぜなら、かしらは一つの事を一人の肢体に言い、別の事を他の肢体に言うことはあり得ないからです。
- B. キリストはからだにおける唯一の権威です。すべての肢体の地位は、かしらに結び付くこと、そして彼を万物における唯一の絶対的な権威として承認することです。

VI. 私たちは常にからだを考慮し、からだを顧慮し、からだを尊び、からだのために最善の事を行なうべきです。

I コリント12:12 それは、体が一つであっても多くの肢体があり、体のすべての肢体が多くあっても一つの体であるように、キリストも同様だからです。13 なぜなら、私たちはユダヤ人もギリシャ人も、奴隷も自由人も、みな一つ霊の中で、一つからだの中へとバプテスマされ、みな一つ霊を飲むようにされたからです。

VII. 「ニー兄弟はからだについて教えたとき、私たちが何を行なっても、諸召会がそれについてどのように感じるかを考慮しなければならないと言いました」。

VIII. からだの中に、独立や個人主義はあり得ません。なぜなら、私たちは肢体であり、肢体はからだから分離して生活することはできないからです：

A. からだの啓示がある所はどこでも、からだの感覚があり、からだの感覚がある所はどこでも、個人主義の思想と行動は取り除かれます。

キリストを見ることは、罪からの解放という結果になります。からだを見ることは、個人主義からの解放という結果になります。

B. 私が知らないことを、からだの他の肢体は知るでしょう。私が見ることができないものを、からだの他の肢体は見るでしょう。私が行なうことができないことを、からだの他の肢体は行なうでしょう。

I コリント12:17 もし体全体が目であるとしたら、どこで聞くのでしょうか？ もし全体が聞くとしたら、どこでかぐのでしょうか？18 しかし今、神は各肢体を、それぞれ体の中に、彼の意図するままに置かれました。19 もし全部が一つの肢体であるとしたら、体はどこにあるのでしょうか？20 しかし今や、肢体は多くあっても、体は一つです。21 目は手に向かって、「私はあなたを必要としない」と言うことはできません。また頭は足に向かって、「私はあなたを必要としない」と言うことはできません。22 それどころか、ほかより弱いと見える体の肢体こそ、むしろ必要なのです。

C. もし私たちが肢体仲間の助けを拒絶するなら、キリストの助けを拒絶しているのです。遅かれ早かれ、すべての単独のクリスチャンは枯渇します。

私はからだの他の肢体に、私の必要に供給してもらわなければなりません。私たちは、絶えずからだの交わりにあずからなければなりません。なぜなら、それは私たちの命そのものであるからです。キリストが持っておられるすべては、彼のからだの中にあります。自分だけでクリスチャンであることができると主張する人は、愚かな人です。…私たちがからだの中で生きる限り、私たちの状態がどうであっても、からだの供給を受けます。あらゆる肢体は、からだの供給を尊ぶこと、あらゆる肢体を尊ぶことを学ぶべきです。

IX. 私たちはからだの肢体として、他の肢体によって制限されるようにし、自分の度量を越えないようにしなければなりません：

A. 神はすべての肢体を、からだの中に、彼の意図するままに置きました：

1. かしらは私たちをからだにおける特別な位置に案配し、私たちを特別な機能に任命します。
ローマ12:4 一つの体の中には多くの肢体があり、そしてすべての肢体が同じ機能を持っていないように、
2. 私たち各肢体は、キリストのからだの中で私たち自身の位置を持っています。それは神によって指定されており、私たちはそれを受け入れるべきです。
3. そのような指定は神のみこころにしたがっているので、あらゆる肢体が必要です。あらゆる肢体には一定の位置、一定の案配、特別な分があり、彼はそれをもってキリストのからだに仕えます。
4. 各肢体には自分自身の特徴、自分自身の能力があります。これらの特徴は、各肢体の位置、地位、務めを構成します。

B. からだの成長と発展のための基本的な要求は、私たちが自分の度量を承認し、それを越えないことです：

エペソ4:7 しかし、わたしたち一人一人に、キリストの賜物の度量にしたがって恵みが与えられました。

1. 私たちは自分の度量を越えるとき、からだの秩序に干渉します。
2. 自分自身について思うべきことを超えて思い上がり、冷静な思いがないことは、からだの生活の正しい秩序を無にします。ローマ12:3 わたしは、自分に与えられた恵みによって、あなたがた一人一人に言います。自分自身について思うべきことを超えて、思い上がることなく、むしろ神がそれぞれに割り当てられた信仰の度量にしたがって、冷静な思いで思うべきです。

C. 私たちはパウロのように、神がキリストのからだの中で私たちにどれほどの度量を与えたかにしたがって行動し活動し、神の支配、神の尺度と度量の制限の内側にとどまっているべきです。

経験(ビジネス・ライフ編)：

- ①競争力のある優れた会社は、会社の経営方針が、各本部、各部、各課、各個人にブレイクダウンされており、きっちりとアラインメント(整列)が取れています。アラインメントの取れていない組織または個人は、いくら個人的に頑張っても、会社の上司からサポートを受けることはできません。あなたがビジネス・ライフにおいて成功するためには、必ず会社の経営方針、本部の方針、部署の方針を理解したうえで日常の業務を行う必要があります。召会生活においては、一つ思いで一を実行することが求められています。なぜなら、一つ思いは新約におけるあらゆる祝福のマスターキーであるからです。あなたが召会生活の中で一つ思いを持つことができれば、会社の中でアラインメントを持って日常業務を行うことは容易になるでしょう。
- ②あなたが会社の中でアラインメントを取り、上司からサポートを受けるため、あなたの中の個人主義、独立、高ぶりを対処しなければなりません。また、あなたは冷静な思いを持って、自分の会社の中での立場や度量を認識し、それを越えないようにする必要があります。